

研 修 参 加 報 告

〈日本共産党〉

□ よくわかる市町村財政分析講座

〈研修目的〉

市町村財政の仕組みを学び、財政分析をするための基礎的な力量を身につけるとともに、限られた財源を市民のためにどのように使っていくべきなのか、またまちづくりのために有効な使い方をしていくにはどのようにしたらよいかなど、今後に生かすべき確かな視点を身につける。

〈研修概要〉

研修年月日	講 座 テ ー マ	講 師
平成29年 4月18日 (火)	1. 自治体情報の電子化と公開性ーだれでもできる財政分析ー	社団法人財政デザイン研究所代 表理事・NPO 法人多摩住民自 治研究所理事 大和田 一紘氏
	2. 市町村のふところは一歳入の仕組みを考えるー	
	3. 議会・市民から見た税金の使われ方ー歳出の仕組みを考えるー	
	4. 様々な「財政指標」の見方・読み方・考え方	
4月19日 (水)	5. 類似団体比較カードと財政状況資料集のイロハ	大和田 一紘氏
	6. 地方交付税制度の基礎の基礎～臨時財政対策債にも触れて	

主催：NPO法人 多摩住民自治研究所

研修場所：立川たましんRISURUホール

〈研修参加者〉

向田 聡

〈講演・演習概要報告〉

1. 自治体情報の電子化と公開性ーだれでもできる財政分析ー

◆概 要

地方分権一括法の施行（2000年4月）後、決算カードを中心に財政情報の開示が始まり、今「類似団体比較カード」はじめ「財政状況資料集」などの開示が行われている。4つの財政指標としての「財政力指数」「経常収支比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」が定着してきているが、広報や議会報のあり方を考えるとともに、それらの財政用語の意義をつかむ。

2. 市町村のふところは一歳入の仕組みを考えるー

◆概 要

市町村の歳入の仕組みを学び、「入るを量って出づるを制す」の意味を考え、さらに分権にふさわしい歳入の仕組みの在り方を考える。

3. 議会・市民から見た税金の使われ方ー歳出の仕組みを考えるー

◆概 要

歳出の分析を通して首長の政治姿勢や政策を学び、新しい住民ニーズに見合った歳出の在り方、土木・ハコもの行政から安心・安全、環境、教育、福祉型への転換を考える。

4. 様々な「財政指標」の見方・読み方・考え方（演習）

◆概 要

市町村の財政分析に際しては、さまざまな「財政指標」が用いられる。決算カードを用いた演習を通して、本自治体決算の数字の読み方を学び議会での生かし方を考える。

5. 類似団体比較カードと財政状況資料集のイロハ（演習）

◆概 要

類似した条件にある自治体の財政を比較することで、自らの財政運営の特徴を捉えることができる。類団カードや財政状況資料集を用いて検討することや、本自治体の財政状況に関する財政課のコメントなどもあわせて検討し、それらを手掛かりとして、自治体財政運営の現状がどうなっているかを読み解く力方法を考える。

6. 地方交付税制度の基礎の基礎～臨時財政対策債にも触れて

◆概 要

地方交付税制度を理解していくには、普通交付税を基準財政需要額、基準財政収入額、基準財政規模財政力指数と一体的にとらえていくことである。その考え方を学び、また、臨時財政対策債は実質的な交付税であると同時に地方債である意味も考える。

〈全体を通しての所感〉

議員となって6か月が過ぎた時期に、よくわかる市町村財政分析という研修を受ける機会を得

た。今回の研修会は、行財政を知ることは議員としての基礎的な仕事であることを認識させられた研修会であった。たくさんある財政用語と中身を、一つ一つ正確に理解し、判断していけるだけの力が今回の研修だけで得られたとはとても言えないが、市財政に対する理解と今後の安来市の財政の在り方と市民のために有効に運営していく視点がつかめたように思う。

平成29年度予算案が、難航の末、可決されたが、それは中期財政計画による試算とずいぶんかけ離れた予算提示によるものだったことが原因であった。また、今後も予算規模が膨れ上がることにに対する懸念であったと思うが、その判断を市民の代表としての議員もどうするのかを真剣に考えなければならない当初予算であったということである。もちろん緊急性のあるもの、市民の命と安全、くらしに直結するものは削るわけにはいかないので、不要不急のものは何であるかという判断をしながら、予算を作る、財政を運営していくことを考えなければならない。安来市を持続可能な自治体として、今後存続させるために、どこにメスを入れるべきであるかを判断しなければならない。

入り（歳入）と出（歳出）の仕組みを今回の研修で学ぶことができた。また、市の財政が健全に推移しているかどうかを判断する様々な「財政指標」も教えていただいた。そして、市の財政がうまくいっているかどうかの判断は、その自治体の財政の経年比較を追っていくことと、同じような財政規模の類似団体との比較によって、本市の特徴（優れている面、課題のある面）が分かるといったようなことも教えていただいた。決算カードや類似団体カードによる演習や財政状況資料集（総務省ホームページから確認可能）を基にした研修は大変有効であった。

ただ、あまりにも専門的な用語が多くまた、資料也多岐にわたるためこの一回の研修で身についたとはとてもいえず、絶えず本市の状況を教わった財政分析の指標にあてはめながら検討を進めていかなければならないと考えている。行財政改革特別委員会も今回でき、執行部提案で本当に財政運営が健全に推移するのかを見極めなければならない、議員としての力量が問われる時である。市民にとって何が大事で何を優先しなければならないか、また不要不急のものは何かなど、見極める力を付けるためにも、今後さらに研鑽を積んでいきたい。